

南海放送

活動名	「水野広徳自伝 読み聞かせ」事業
実施期間	令和5年9月8日（金）
実施回数	会場1回

【事業実施の成果・課題】

当日は6年生の児童38人と、その保護者も数人参加してくれました。作品自体が小学校高学年から中学生向けに書かれたものであったため、子どもたちにもわかりやすかったと先生方には評価を頂きました。水野広徳が三津浜出身であることをほとんどの児童は知らず、今回の読み聞かせを通して、郷土の偉人への関心を持ってもらうことができました。限られた時間のため、自伝のうち一部抜粋を朗読することとなりましたが、授業後に朗読した作品を5冊寄贈したところ、「全部読んでみたい」と手に取ってくれる児童が多かったということです。朗読に熱心に耳を傾け、その内容に関する意見交換でも非常に活発に自分の考えを発表する児童の姿に、アナウンサー陣も刺激を受け、直に読み聞かせをする意義と影響を実感する機会となりました。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<永野彰子アナウンサー>

平和を訴え続けた郷土の偉人水野広徳の顕彰活動は、命日の追悼イベントなど長年にわたって行ってきましたが、関心を寄せてくれるのはどうしても高年齢層が中心で、若い世代への広がりが課題でした。当社では子ども向けの冊子を制作し、各学校への配布等も行ってはいましたが、やはり広がりは限られます。今回、その内容を私たちの「声」で語りかける試みを行いました。私たちをまっすぐ見つめ、聞き入る姿。読後には「平和の大切さがわかりました」

「いけないことを訴え続ける勇気が大事だと思いました」という感想を聞くことができました。子どもたち一人一人に“語りかける”こと、リアルなことばの力は大きいと感じたひとときでした。

<松本直幸アナウンサー>

児童にとってはイメージしにくい難しい表現もあったかもしれませんが、それでも目を輝かせながら熱心に聴いてくれました。読み聞かせの感想やこちらからの質問にも一所懸命答えてくれたことが強く印象に残りました。こうした機会に参加して思うことは、伝えることの難しさです。読み聞かせをする私たちこそたいへん勉強になる取り組みでした。会場の三津浜小学校図書館は、たいへんきれいで明るく書籍も充実しておりいい環境だと感心致しました。

<佐伯りさアナウンサー>

修学旅行での平和学習に先立っての読み聞かせ授業ということで、子どもたちだけでなく保護者にも数名参加してもらえました。幼少期の場面では笑顔を浮かべながら、また戦禍を描いた場面では真剣な表情で、熱心に聞いてくれる子どもたちの姿に、読み手としても自ずと熱がこもる相乗効果を感じました。また、クイズや質疑応答でも積極的に挙手をして意見を述べてくれる児童が多く、お互いの想いがしっかりと交換できていることを実感できる充実した時間でした。

＜高野真子アナウンサー＞

難しい内容でも自分たちで噛み砕いて理解しようとしている児童の姿が印象的でした。このような活動を通して、戦争を少しでも自分事として捉えてもらえたら嬉しいです。今回、読み聞かせを実際にしてみて、特に小学生に向けて行うときは、ゆっくりと情景を思い浮かべられるようにすることが大切だと感じました。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

＜先生方の感想＞

- ・アナウンサーによる読み聞かせ、さすがだなと感心させられました。
- ・子どもたちも私たち大人も、水野広徳の生き方をしっかりと感じ取ることができた。

＜子どもたちの感想＞

- ・皆さんの読み方がとても上手く、本の内容がすごく頭に入りました。
- ・私がすごいと思ったところは、まわりの人からいやなことをたくさん言われても自分の意志を変えずに、戦争反対と言いつけたことです。
- ・水野さんについて気になった事があるので、もらった本を読みたいなと思いました。
- ・すごく聞きやすく、内容が頭にすぐに入りました。そのおかげで、水野さんのすごさや勇気、戦争がどれだけひどく辛いものか分かりました。
- ・アナウンサーのみなさんが表情をつけて読み聞かせをしてくれていて、とても話が分かりやすかったです。
- ・とても聞き取りやすくお話を集中して聞くことができました。途中にあったクイズも楽しかったです。
- ・この本の内容を知って、自分が住んでいる地いきに昔すごい人がいたということがわかりました。
- ・アナウンサーさんたちは、とても感じょうをこめて、とても聞きやすいように読んでくださって、とても感動しました。